

Ⅱ 作物別省エネ対策

【イチゴ】

1) 現状

(1) 生育適応性

○現在の主流は高設栽培となっているが、土耕栽培での土壌の適応性は比較的広く、県内の砂壤土から壤土地帯が栽培適地である。

○生育温度は最低温度 5℃、最高温度 35℃で生育適温は 20～25℃である。

○イチゴの光飽和点照度は約 20klx と比較的 low 照度にあるが、冬季の日照量が不足する栽培となるので保温目的で施設の多重被覆を行う場合は、被覆方法や葉・果実の受光体勢を考慮する必要がある。

(2) 現在の主要作型



(3) 加温時期と重油等の消費量 (10a 当たり)

○加温を要する期間は、気象条件によって異なるが、最低夜温 8℃をその目安として行う。通常は 12 月初めから翌年 3 月末ごろまでとなる。

○加温とは別に、炭酸ガスの発生装置の燃料に灯油を 11 月中旬から翌年 4 月中旬まで使用する。

○重油消費量：5,500ℓ (最低温度設定：8℃)

灯油消費量：1,000ℓ

(4) 経営費に占める暖房費の割合 (重油単価 80 円/ℓの場合)

○作型：ポット育苗促成 (らくちん栽培)

経営費目	金額(円)	備考
変動費 (種苗費・光熱費等)	1,774,000	光熱費のうち 重油費：282,000 円
固定費 (減価償却費等)	600,000	
経営費合計	2,374,000	経営費のうち 重油費割合：11.9%

(5) 重油高騰の収益への影響

○上記(4)の経営費において、光熱費及び諸材料費が重油と同様に上昇することを想定して試算。

重油単価 (円/ℓ)	重油費 (円/10a)	経費全体 (円/10a)	収 益 (円/10a)
50	275,000	2,313,000	1,987,000
60	330,000	2,386,000	1,914,000
70	385,000	2,459,000	1,841,000
80	440,000	2,532,000	1,768,000
90	495,000	2,605,000	1,695,000
100	550,000	2,678,000	1,622,000
110	605,000	2,751,000	1,549,000
120	660,000	2,824,000	1,476,000

2) 対策

(1) 施設の改善

加温機の点検整備や施設の内張り等の多層被覆については、共通技術を参照する。

(2) 適正な温度管理

○高設栽培のらくちんシステム等で4段サーモの変温管理ができる場合は、次表の時期別温度管理（女峰を例示）を行う。

○変温管理ができない場合は、加温機の温度設定を8℃にして管理する。

○燃料費の出費を恐れるあまり過度の低温管理を行うと、不受精果の発生等障害が起こり、かえって品質悪化を招くことになるので注意する。

			12月			1月	2月	3月
			上旬	中旬	下旬	全旬	全旬	全旬
早朝	① 設定	時間	6:30～9:00			7:00～9:00		6:30～9:00
		温度	12℃			13℃		12℃
昼間	② 設定	時間	9:00～17:00			9:00～16:00		9:00～17:00
		温度	15℃			20℃		20℃
日没後	③ 設定	時間	17:00～20:00			16:00～19:00		17:00～20:00
		温度	12℃			12℃		12℃
夜間	④ 設定	時間	20:00～6:30			19:00～7:00		20:00～6:30
		温度	8℃			8℃		6℃